



東部の子

9月15日(土) 県内の中学生が日頃の生活を通じて考えたことを発表する「少年の主張」において3年生の渡邊美妃さんと畠山紬来(つむぎ)さんが出場し、渡邊さんは地区大会で優良賞、畠山紬来さんは県大会に於いて最高賞である県知事賞を受賞しました。畠山さんは今後11月に開かれる全国大会に県代表として推薦されます。作文の内容は以下の通り。

先生は二歳

畠山紬來

「お母さんと離れるの、イヤだ！」そんな気持ちから毎朝保育園の入口で大泣きしては周囲の人を困らせていた子。お昼になれば家から持ってきたお弁当箱を見ては母を思い出してまた泣きわめいた子。それは十年以上前の、この私です。

私は栃木県の山間地に生まれました。常に母と一緒に生活だつたため、ほとんど家族以外の人と関わることをしてきませんでした。三歳のとき、父の転勤で長野市へ引っ越しました。初めて保育園に入ることになりましたが、不安な気持ちと人見知りで、私はそのことが全く受け入れられませんでした。

毎日、きまつて大騒ぎを起す
す私に、「大丈夫だよ」「すぐ

お母さん帰つてくるよ」「一緒に遊ぼうね」と根気よく声をかけ、優しくだっこしてくれたのは当時の私の担当だった柳澤先生でした。先生は私を安心させたため、他に面倒を見る園児が何人もいるのに、ずっとそばにいてくれました。そんな柳澤先生には私は憧れるようになり、家では先生のマネをしたりして、将来は保育士になりたいと卒園アルバムにも書き残し、それからもそんな夢を抱き続けてきました。

将来は保育士になりたいといふ気持ちもあって、どうしても間きたかった私は、久しぶりに先生のもとを訪ねました。

生に近い年齢になり、これから
の進路を考えていくときになりました。二人の先生から聞いた
ことは、私の人生の大きな道し
るべきです。

保育士を目指すために私がすること。それは、誰もが私にとつての先生だと思える謙虚な心をもつこと。誰からでも学べる丸く柔らかい心をもつた自分になること、だと考えます。

『三歳の先生』なのよ。もちろん、保育園の子どもは、私には、自分の保育を常に反省します。けれど、あなたの保育をすることで、ずいぶん私の勉強になつたんです。園児の姿には、私たちの保育の結果がはつきりと出るの。だから園児たちの姿を見て、まだ経験が浅かつたくらいで、まだ経験が浅かつた

けれど、あなたの保育をする」とで、ついぶん私の勉強になつたんです。園児の姿には、私たちの保育の結果がはつきりと出るの。だから園児たちの姿を見て、自分の保育を常に反省します。保育園の子どもは、私には『三歳の先生』なのよ。もちろん、少しずつ親離れができるいつたあなたもそうでした」と。

子どもを導くということは、実は、その子から導かされること。そして教えるということは、実は、その相手から教わること。

今、十五歳の私は、保育園児だつた頃よりも、当時の柳澤先

一步踏み出す勇氣

渡邊
美妃

いの人が何かに夢中になつている姿にあこがれ、自分に何かできることはないのか、やはり水泳を止めるべきでは無かつたのではと、後悔も芽生え始めました。そんなある日、私に転機が訪れました。剣道部の先生から「助つ人として剣道部にきてみたいか」と言わされたのです。どうしようか、私はなかなか勇気の一歩を踏み出すことができませんでした。水泳のときのように繞かなかつたらどうしよう、初心者の私が貢献できるのだろうか、と。

けれど、もしかしたら、水泳を止めたことによつて生まれた悔しい気持ちをはらせるチャンスかもしれない、と思い、私は勇気の一歩を踏み出しました。

そして、ここから私の剣道が始まりました。剣道の「け」の字も解らなかつた私。初めて練習した日は、覚えることが沢山遭つて、本当に頭の中が混乱しました。自分が想像していく以上に難しくて、けれど必死に頑張りました。沢山練習を重ねて行くにつれて手と足に大きな豆ができました。ものすごく痛かつたけれど、それは努力の証。そう思うことで、更に練習を頑張りました。

始めてから数ヶ月後に冬の大会に出場することが決定し、他の中学校の生徒と試合ができるということをとても嬉しく思いました。しかし、私たちはその

止めたことによって生まれた大きな後悔。その後悔は、私に輝かせてくれました。

うに続かなかつたらどうしよう、
初心者の私が貢献できるのだろう
うか、と。

けれど、もしかしたら、水泳を止めたことによって生まれた悔しい気持ちをはらせるチャンスかもしれない、と思い、私は勇気の一歩を踏み出しました。

そして、ここから私の剣道が始まりました。剣道の「け」の字も解らなかつた私。初めて練習した日は、覚えることが沢山遭つて、本当に頭の中が混乱しました。自分が想像していた以上に難しくて、けれど必死に頑張りました。沢山練習を重ねて行くにつれて手と足に大きな豆ができました。ものすごく痛かつたけれど、それは努力の証。そ

あのとき、勇気の一歩を踏むことによって、私はここまで成長することができました。水泳

清掃集会が開催されました

9月11日(火) 6時間目後
半、全校生徒が体育館に集まりました。清美委員会が清掃の様子をVTRで見せ、清掃中留意

けれどその時、ようやく気づきました。「悔しさ」や「悲しさ」こんな気持ちが生まれるほど、自分は剣道が好きだということを。助つ人として始めた剣道も、いつしか本当に取り組めるようになっていました。練習後は毎日フラフラで、家に帰ると直ぐ寝てしまう。そんな日々でしたが、私は剣道部を辞めようとは思いませんでした。

けれど、私は勇気の一歩を踏みだしたことで、剣道を知り、剣道を好きになることができました。立ち止まってしまう前に勇気を出して一歩踏み出したいからも失敗を恐れず。いろいろなことにチャレンジしています。

まるで狙っていたかのようだ。
大会数日前にインフルエンザが
流行。先生に「大会に出られない
い。」と言われました。なんと
なく予感はしていたけれど、
まさか本当に出られないなんて。
悔しくて悲しくてたまりません
でした。

何かを新しく始める。または、何かに挑戦する。これらのことはとても勇気がいることだと思います。

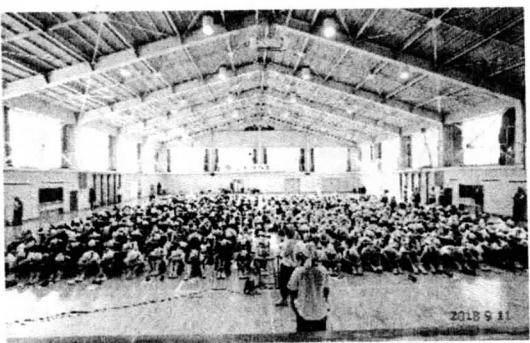
清純の時間になつたらここで全校で一息をします。一息が終わり、移動するときはいつもの退場のようにしてください。

することを伝え、その後、全校の生徒が一斉に「一息」(默想)を行い、各清掃場所に出向きました。

な感じがしました。その時に、
今3年生の役員さんたちはす
ごいと思つたし、これからも今
日みたいな清掃を続けていきた
いです。」（2年生）

いときに逃げ出したりした時もありました。しかし、清掃をしつかりやれば、自然と我慢の心がついてきて、できなかつたことでもできるようになつてくると思ふので頑張りたいです。」（3年生）。

うえだ七夕文学賞



第三回 うえだ七夕文学賞俳句・中学生の部 上田市長賞

句・中学生の部
1年3組 上田市長賞
中村玲華さん

合
中学生の部
1年3組 中村玲華さん

「せみが鳴く風鈴が鳴る」
—重奏